

# 時間をかけて考えたい 最も自分らしい葬儀

多様化する葬儀のスタイル。それぞれにメリットもあれば、デメリットもある。何を基準に選べばいいのか。それをしっかりと託すのも、これからのシニアの大切な責任。葬儀の本来の意義も踏まえ、時間をかけてじっくり考えたい。



## 【多様化する葬儀の形式】

	参加者重視 (従来型)	家族葬	密葬
特徴	家族や親族をはじめ、友人・知人や仕事関係者等も参加し、通夜、葬儀・告別式を行う従来型の葬儀。最近では自宅で行う例は減少し、葬儀会館の利用が増えている。	家族や故人とごく親しい人のみで行う葬儀。その形態は実にさまざままで、家族数名で見送る場合や、親戚や友人も参加して数十名で行う場合もある。	通夜や葬儀・告別式のような儀式は行わず、火葬をもって一切を終えるスタイル。亡くなった日は家族のみでお別れの時間を過ごし、その後茶毘(だび)にふされる。
メリット	故人とゆかりのある多くの人に参加していただくことができる。	家族や親しい友人だけで、お別れの時間が十分に持てる。	時間と経済的な負担を抑えることができる。
デメリット	参加者が大勢になり、遺族がその対応に追われてしまう場合がある。	親戚や知人などに知らせずに行くと、後でトラブルになる場合がある。葬儀後、訃報を知った弔問客が自宅に次々訪れることも。	火葬だけの見送りになるため、大切な人の死を十分に受け入れにくくなる場合がある。

## 【樹木葬の特徴】

### 1 【都市型・公園型】個別に墓標を設置

樹木葬の許可を得ている場所に、シンボルツリーがあり、ツリーの周りを取り囲むように墓標を設置し、埋葬される。シンボルツリーは霊園で管理してもらうことができる。



### 2 【里山型】好きな樹木を植ええられる

墓碑として用いられる樹木は、ハナミズキやサルスベリ、カエデなどが一般的。好きな木のある場所を選ぶ。好きな木を植えた後のお手入れは各個人で行うことになる。

### 3 継承者なしでも永代供養

樹木葬は、継承者がいなくても永代供養が可能。また、宗教などにとらわれることもなく、誰でも利用することができる。

### 4 費用面も大きな魅力

一般的な墓地の相場は、土地と墓石を合わせて200~300万円。樹木葬の場合は30~100万円が相場で、年間管理料の数千円を含めても費用を大幅に抑えることができる。

## 第二期 募集中

## 清月記モニター制度

第一期の清月記モニターのメンバーは、40~80歳代の62人。任期は昨年12月からの1年間で、3カ月に一度のペースで集まり、「葬儀の果たす役割」などをテーマに毎回熱く語り合ってきた。



特に回を重ねる中で考えが大きく変わってきたのは、家族葬の在り方だ。初めは小規模で低価格というイメージの家族葬に魅力を感じていた人が多かったものの、家族だけでなく、故人が関係した多くの人にとっても大切な儀式であることに気づき、葬儀の意義と可能性を再認識することができたという。さまざまな経験談から学び、自分の考え方を整理できることはモニター制度のメリットの一つでもある。モニター終了後は、懇談会やアンケートを通じて意見や提案をする「アドバイザー・フェロー」として引き続き活動していく予定だ。

来年1月からは、第二期モニターの活動がスタート。募集内容の詳細は、清月記のホームページを確認。

<https://www.seigetsuki.co.jp/>

### 第一期モニターの記録から(2017年3~4月調査)

#### 葬儀に対する意見の一例

- ◎葬儀の事前相談をしていくことは必要。いざという時に慌てずに済んだ。
- ◎私が書いた感謝の言葉を葬儀で読み上げてほしい。
- ◎葬儀はいらないとと言われても、残された側としてはそうもいかない。
- ◎施設や病院費を考えると、葬儀が絶対に必要か迷う部分もある。
- ◎葬儀は必要だと思うが、時代の流れとともにやり方は変わっていきだろう。

#### 葬儀の果たす役割とは?(複数回答方式)

- 【第1位】 けじめ・区切り・線引き
- 【第2位】 故人への感謝
- 【第3位】 故人を見送ることができる
- 【第4位】 気持ちを整理できる  
故人を知ることができる  
(生き様や人柄)
- 【第5位】 亡くなったことを知らせる  
縁を復活させる・つなげる



株式会社清月記  
企画室課長  
成田 実千代さん

清月記 総本社  
仙台市宮城野区日の出町2-5-4  
TEL.0800-888-5777  
(無料フリーコール)

「終活」という言葉の定着とともに、葬儀についても自分らしいスタイルを考えるシニアが増えている。しかし、その意義や可能性について学んだり、自由に語り合える場は意外に少なく、個々での活動が基本となっている。県内各地に葬祭会館を持ち、数多くの葬儀をサポートしてきた清月記では、昨年12月から独自のモニター制度を実施。自分や家族の葬儀への思いを本音で語り合い、一緒に考える場を提供している。話し合うことで葬儀の知識と理解が深まることもに、求めるイメージもより具体的にになり、こうした機会の大切さを改めて実感したと語る清月記の成田実千代さん。今後は議論された内容を整理し、新しい葬儀の提案などに幅広く役立てていきたいと考えている。

「豊かな自然に囲まれ、好きな樹木の下で眠りたい」という意見もあったと成田さん。また、「子ども世帯が遠く離れた暮らす場合、墓地の管理などの負担を減らせることに魅力を感じる人も多い」という。

11月4日、清月記は蔵王町の樹木葬型公園墓地を見学するバスツアーを開催予定。現代のさまざまな埋葬の仕方を学び、自分らしいスタイルを考えたいというシニアとその家族には最適なツアーだ。

### 注目を集める樹木葬 現地の見学会も人気

モニター活動では墓地についての議論も行われ、樹木葬への関心の高さも示された。樹木葬とは自然葬の一種で、墓地許可地の樹木を墓標とする埋葬の仕方。宗教にとらわれず、継承者がいなくても永代供養ができることから大きな注目を集めている。

「話し合うことで深まる 葬儀の知識と理解」